

令和元年8月28日現在

機関番号：23803

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K20683

研究課題名(和文)生活行動援助に関する新人看護師教育のプログラム構築 排泄援助習得過程からの検討

研究課題名(英文)Construction of Educational Program for Newly Graduated Nurses -Learning Process of Elimination Support

研究代表者

山口 みのり (Minori, Yamaguchi)

静岡県立大学・看護学部・准教授

研究者番号：00369480

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：新人看護師が就職後、どのように患者に合わせた排泄援助を習得していくのかを明らかにすることができた。新人看護師は、就職後、研修で習った手技と実践が異なると困惑していた。また先輩看護師の行う看護技術を個別性や臨機応変な対応と思うことができなかった。そこで、基本に忠実にやろうと自分の看護技術の確立を目指した。実際に自分で実践し上手くいかない経験を経て、先輩の看護技術の基盤となる根拠や思考に目を向けるようになった。就職6カ月後には、先輩の技や感覚、瞬時の判断を学んでいた。この結果を受けて、生活行動援助全般について、病院施設の新人教育担当者と教育研修について検討することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新人看護師の実践力低下、離職については、多くの研究がなされている。しかし、新人看護師が就職直後からどのように技術習得していくのかを肯定的に捉え、参加観察やインタビューを交えて忠実に描いた研究は少ない。新人看護師が成長する過程に不可欠な先輩看護師との協働を提示し、教育にどのように生かしていくか検討することができた。また、排泄援助に着目したことにより、生活行動援助全般に共通する過程を見出すことができた。

研究成果の概要(英文)：I clarified how new nurses will learn about elimination support after finding a job. After getting a job, new nurses suffered from differences in training and practice. Looking at the nursing skills performed by senior nurses, they did not think that it was an individual response. Therefore, they aimed to establish one's nursing skills to try to adhere to the basics. They actually tried it yourself and it didn't work. Gradually, they noticed the evidences and thoughts of senior nurses. Six months after finding a job, they learned the skills, senses, and instantaneous judgments of their seniors. Based on this result, we were able to consider the education and training with new staff in charge of hospital facilities about life behavior support in general.

研究分野：基礎看護学

キーワード：新人看護師 生活行動援助 排泄援助 技術習得 習得過程 新人教育

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

1) 本研究に関連する研究動向及び位置づけ

近年、新人看護師の看護実践能力低下、技術習得の未熟さ（厚生労働省，2003；日本看護協会，2007）が長期にわたり問題視されてきた。就職直後の調査によると、新人看護師は患者状況に応じ、複数の看護技術を含んだ生活行動援助を苦手としている（山崎ら，2004）。

この現状を受け、厚生労働省は2009年に「新人看護職員研修ガイドライン」を示し、2010年より新人看護職員の卒後臨床研修を努力義務化した。

しかし、研修プログラムは医療機関の特性や考え方によって異なり（厚生労働省，2014）、生活行動援助の教育は現場に任されているため、指導の具体的方策は確立していない。よって、新人看護師が生活行動援助を習得するための教育プログラムを構築することは急務の課題といえる。

先行研究では、新人看護師の援助習得状況を自己評価のアンケートによって集計したものが多く、新人看護師の実態を経時的に明らかにしたものは、申請者の報告に限られ希少である（山口，2011）。新人看護師の生活行動援助の習得過程を言語化して提示し、その実態を踏まえた教育プログラムを構築する意義は大きいと考える。

2) これまでの研究成果を踏まえ着想に至った経緯

研究者は、これまで新人看護師の生活行動援助について研究し（山口，2011）、「体位変換」に着目して、「患者に触れる」という視点から習得過程を明らかにしてきた（山口，2013a；2013b）。しかし、生活行動援助には「的確な判断」や「患者への配慮」といった複合的な視点も必要とされる。そこで、それらがとりわけ求められる生活行動援助「排泄援助」に着目して、新人看護師の生活行動援助の習得過程を明らかにすることが課題となった。

排泄援助は基本的な生活行動援助の一つであり、手技のみならず、対象者の快・不快感、自尊感情に深く影響し、感染予防にも注意を要する重要な援助である。ことに自然排尿・排便援助については「新人看護職員ガイドライン」において、1年以内に修得を目指す援助技術とされている。

そこで本研究は、新人看護師が就職後どのように一連の排泄援助を実践し、患者の状況に合わせた援助を習得していくのかを明らかにし、生活行動援助に関する新人看護師教育のプログラムを検討することを目的とし、研究実施を計画した。

（文献）

厚生労働省（2003）. 看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書.

厚生労働省（2014）. 新人看護職員研修ガイドライン【改訂版】（平成26年2月）.

日本看護協会（2007）. 「看護師臨床研修必修化推進検討委員会」報告書.

山口みのり（2011）. 新人看護師の看護実践の変化—体位変換場面を通して—. 日本赤十字看護大学大学院看護学研究科博士論文.

山口みのり（2013a）. 就職直後の新人看護師における体位変換の実践の様相. 日本看護技術学会誌, 11(3), 56-64.

山口みのり（2013b）. 新人看護師の看護技術の習得過程—先輩看護師と実施する体位変換時の身体感覚に焦点を当てて—. 日本看護技術学会誌, 11(3), 4-12.

山崎珠美, 内海文子, 新田壽子, 他（2004）: 新人看護師の就職時の看護技術チェック合格と経験との関連, 九州国立看護教育紀要, 7, 33-37.

2. 研究の目的

本研究は、新人看護師が就職後6ヵ月間でどのように一連の排泄援助を実践し、患者の状況に合わせた援助を習得していくのかを明らかにし、生活行動援助に関する新人看護師教育のプログラムを検討するものである。今回は、新人看護師の排泄援助の様相を実践知の獲得や困難さから描き、援助を習得するまでの経時的過程を明らかにする。

新人看護師の成長は、1病院施設にあっても、配属された病棟、年度の病院風土、業務状況、患者の入院状況に左右され、影響を受ける因子は多様である。そのため、経時的な面接と参加観察による質的研究を行い、研究者1名が1年で調査できる対象者を3名程度に限定し、詳細なデータをとる。本調査に加えて、過去2ヵ年の調査結果を含めてデータ分析を行うことで、調査結果の一般化を図り、習得過程モデルを提示することを目標としている。

3. 研究の方法

1) 経年的計画

・平成 27 年度・平成 28 年度

新人看護師が就職後 6 ヶ月間でどのように一連の排泄援助を実践し、患者の状況に合わせた援助を習得していくのかを明らかにするため、研究計画とフィールドワークの再調整を図り、新人看護師への半構造化面接と参加観察によりデータを収集する質的調査を行う。

・平成 29 年度

新人看護師の生活行動援助の習得過程をまとめる。病院施設の教育担当者とともに、新人看護師教育の方策を検討する。

・平成 30 年度

生活行動援助に関する新人看護師教育のプログラムの実施を図る。

2) データ収集方法（平成 28 年度）

・研究デザイン：半構造化面接による質的記述的研究。

・調査場所：関東圏内 A 病院の 1 病棟。

・研究参加者：4 月に A 病院に就職した新人看護師 3 名。

・データ収集期間：6 月～7 月、9 月～10 月。

・面接内容：生活行動援助場面における看護技術の実践内容と先輩看護師の指導、それらから感じたこと。

・分析方法：逐語録を作成し、各新人看護師の語りの内容を経時的に再構成した後、共通に見出された特徴を検討した。

その後、平成 25 年度、26 年度収集データと合わせて分析を行った。

・倫理的配慮：研究者所属機関ならびに A 病院研究倫理委員会の承認を得て実施した。参加者には研究参加の自由意思、拒否や途中辞退可能、一切の不利益が生じないことを説明して同意を得た。先輩看護師にも了承を得た。データの目的以外での使用禁止、匿名での処理、プライバシー厳守とデータの厳重保管を徹底して、学会に公表予定であることを説明した。

3) 研究が当初計画どおりに進まない時の対応・研究を進める工夫

①参加者の途中辞退・退職への対応

- ・4 月に看護部と協議し、職務継続困難が予測される新人看護師は予め対象外とした。
- ・継続意思のある参加者のみ第 2 回調査を実施した。

②新人看護師が面接を負担と感ずることへの対応

- ・予め、負担になる就職直後の 4～5 月には調査を実施しないこととした。
- ・面接日を自由に選べるよう 1 回の面接期間を 6～7 月、9～10 月と長めに設定した。
- ・面接ごとに調査協力の同意を確認した。
- ・援助内容、援助に関する考えに限定した面接の趣旨であること、無理に話さなくてよいことを説明したうえで、自由に語ってもらった。

4. 研究成果

1) 研究結果

新人看護師が就職後、どのように患者に合わせた排泄援助を習得していくのかを明らかにすることができた。新人看護師は、就職後、研修で習った手技と実践が異なると困惑していた。また先輩看護師の行う看護技術を個別性や臨機応変な対応とすることができなかつた。そこで、基本に忠実にやろうと自分の看護技術の確立を目指した。実際に自分で実践し上手くいかない経験を経て、先輩の看護技術の基盤となる根拠や思考に目を向けるようになった。就職 6 ヶ月後には、先輩の技や感覚、瞬時の判断を学んでいた。(図 1)

2) 新人看護師教育への反映

病院施設の新人教育担当者にデータ分析の経過を伝え、結果を共有した。生活行動援助全般において、入職直後の研修で学ぶ手技と実践との乖離、病棟スタッフの看護技術に対する新人看護師の認識とその変化、新人看護師の思考の変容があることを踏まえて、新人看護師教育を長期的のスパンで実施する必要性があることが示唆された。

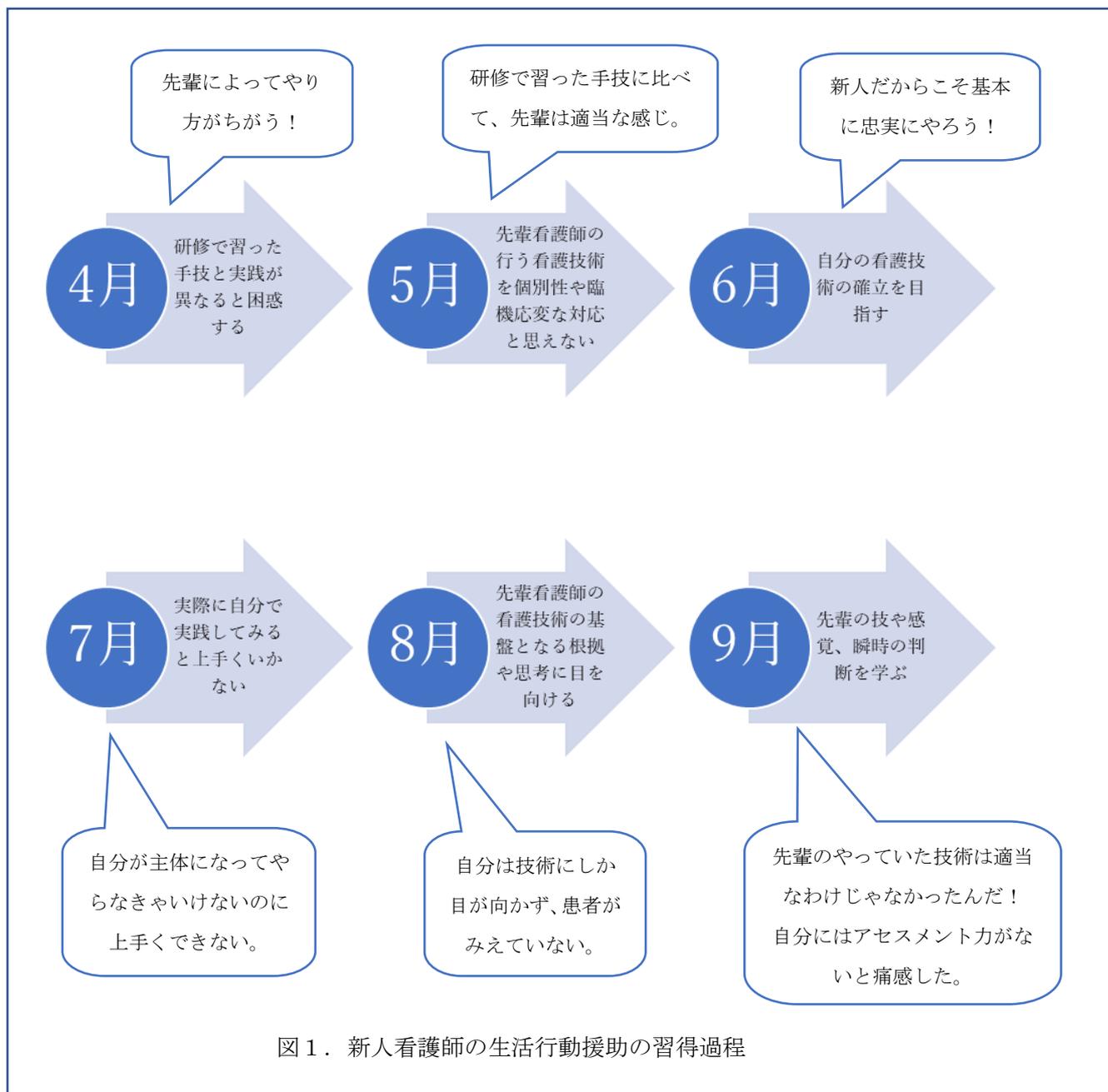


図1. 新人看護師の生活行動援助の習得過程

5. 主な発表論文等

〔学会発表〕 (計2件)

- ・ 山口みのり (2019). 新人看護師の看護援助における“今困っていること”の変化. 日本看護学教育学会第29回学術集会.
- ・ 山口みのり (2019). 新人看護師による先輩看護師の看護技術のとらえ方の変化. 日本看護研究学会第45回学術集会.

6. 研究組織

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。